資料２－５（参考）

【現行道南連携地域づくり推進ビジョン】

地域プロジェクトの推進状況

１．治水事業　・・・・・　Ｐ２～５
２．道路事業　・・・・・　Ｐ６～１０
３．港湾整備事業　・・・・・　Ｐ１１～１２
４．空港整備事業　・・・・・　Ｐ１３
５．農業農村整備事業　・・・・・　Ｐ１４～１５
６．水産基盤整備事業　・・・・・　Ｐ１６～１７
７．防災関係　・・・・・　Ｐ１８

函館開発建設部

道南連携地域の現行「道南連携地域づくり推進ビジョン」概要

項目	観光・交流・社会基盤	食	産業・雇用	暮らし	環　境
地域のめざす姿	個性豊かな歴史や文化、食や自然の魅力を高め、環境と経済が調和しながら成長し続ける　北の懸け橋「道南連携地域」				
	■連携地域の主な施策の方向（概ね2025年度を展望）				
	○北海道新幹線の札幌開業やポストコロナを見据えた交流・定住の促進 ○安心して暮らせる地域社会の維持 ○縄文遺跡群を活かした地域振興	○持続可能な農林水産業の確立 ○地域経済の活性化と雇用の創出	○北海道新幹線の札幌開業やポストコロナを見据えた交流・定住の促進［再掲］ ○持続可能な農林水産業の確立［再掲］ ○地域経済の活性化と雇用の創出［再掲］	○安心して暮らせる地域社会の維持［再掲］	○「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組の推進
地域重点プロジェクト	○人が輝く地域社会の形成プロジェクト ○北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流･定住促進プロジェクト ○暮らしの安全･安心を支えるまちづくりプロジェクト ○縄文遺跡群を活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト	○世界に目を向けた産業の振興プロジェクト ○地域に根ざした農林水産業の持続的発展プロジェクト ○地域の強みを活かした産業活性化・雇用創出プロジェクト	○世界に目を向けた産業の振興プロジェクト［再掲］ ○北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流･定住促進プロジェクト［再掲］ ○地域に根ざした農林水産業の持続的発展プロジェクト［再掲］ ○地域の強みを活かした産業活性化・雇用創出プロジェクト［再掲］	○強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト ○暮らしの安全･安心を支えるまちづくりプロジェクト［再掲］	○強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト［再掲］ ○道南の優位性を活かしたカーボンニュートラルへの挑戦プロジェクト

（このうち、主に北海道開発局が実施する施策・事業）

地域プロジェクト

人が輝く地域社会の形成プロジェクト

■分散型の国土づくりを先導する北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

■北海道の価値創造力の強化に向けた多様な人材の確保・対流の促進

■新たな観光需要を取り込む世界水準の観光の形成

世界に目を向けた産業の振興プロジェクト

■農林水産業・食関連産業の振興とスマート化の推進

■ポストコロナに対応する地域の強みを活かした産業の育成

強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト

■激甚化等する災害の懸念や積雪寒冷地特有の課題も踏まえた強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

■2050年カーボンニュートラル（ゼロカーボン北海道）の実現に向けた建設施工におけるCO_2削減推進

■インフラ分野におけるデータとデジタル技術活用の推進

「美利河ダム水源地域ビジョン」の推進①

「美利河ダム水源地域ビジョン」に基づき、マザーピリカ等の地域住民と連携・協働し、ダムを活用した水源地域活性化のための各種取組を実施・支援しています。

住民組織（マザーピリカ等）と連携し、体験活動等の取組

「美利河ダム水源地域ビジョン」の推進②

美利河ダム等の河川空間を活用した地域活性化の提案について、今金町と札幌国際大学が連携する今金プロジェクトに参画し取り組みます。

2017今金プロジェクト提案（健康チーム）

・ピリカスロン

→ ダムの周辺を利用したトライアスロン
（水泳 → カヌー → ランニング）
・大会の運営ボランティア、特産物販売として参加
・**応援する**だけ、**出場者と話をする**だけでもOK

・ピリカマルシェ

→ 大自然の中で、美味しいものを満喫
・今金の**特産物を使った料理**をＰＲ
⇒ 坂井シェフなどの今金と縁のある有名人をゲスト
・地域の人たちが特産物の販売を行う
⇒ **笑顔で会話**をすることで健康に！

・水上ライブ

→ 大自然の中で音楽と映像を満喫する
・先行研究ではヒーリング映像と音楽の刺激において副交感神経系機能が活性化され、**健康に良い影響**をもたらす
・**ピリカ割引**（地域住民、高齢者）

・ウォールアート

→ インスタ映えする壁画を利用
・日本一長いダムに壁画を描く
⇒ 通過する**観光客の足を止める**
・地域住民**ボランティアによる運営**
⇒ 写真撮影、特産物販売、歴史紹介

ピリカプロジェクトにて実現化

フィールドワークの様子

ピリカまつりで提案の期待度を参加者にヒアリング

マルシェなどを実施予定

マラニックとの連携予定

ピリカプロジェクトへの参画

ピリカプロジェクト（美利河地区住民及び美利河地区周辺事業者等及びJA今金町などの多団体が参画する地域活性化プロジェクト）に美利河ダムも参画し、取り組みを推進します。

令和5年8月6日（日）に、ピリカプロジェクトの取組として、「第8回ピリカふれあいマラソン大会」、「ピリカ遺跡まつり」、「“ミニ夏祭り”ピリカマルシェ」、「美利河ダムを歩いてみよう！」の４つのイベントを同時開催。

第8回ピリカふれあいマラソン大会

ピリカ遺跡まつり

“ミニ夏祭り”ピリカマルシェ

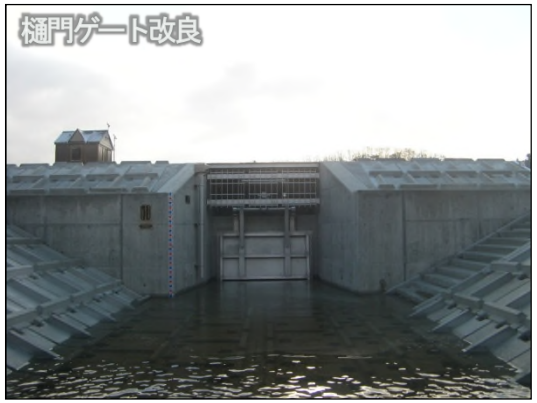
美利河ダムを歩いてみよう！

水害から市街地や農地を保全するための根幹的な治水対策の推進

・水害から市街地や農地を保全するための根幹的な治水対策を推進します。
・河川管理施設の長寿命化を図るとともに樋門ゲートの改良等により、津波などによる突発的な河川水位上昇に備えます。
・減災対策協議会等を通じて、関係機関と協力・連携しハード・ソフト一体となった治水対策を推進します。

治水ハード対策

河川管理施設の長寿命化



流域対策

流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を計画的に推進するため、「後志利別川水系流域治水プロジェクト」に基づき、ハード・ソフト一体の事前防災対策を推進します

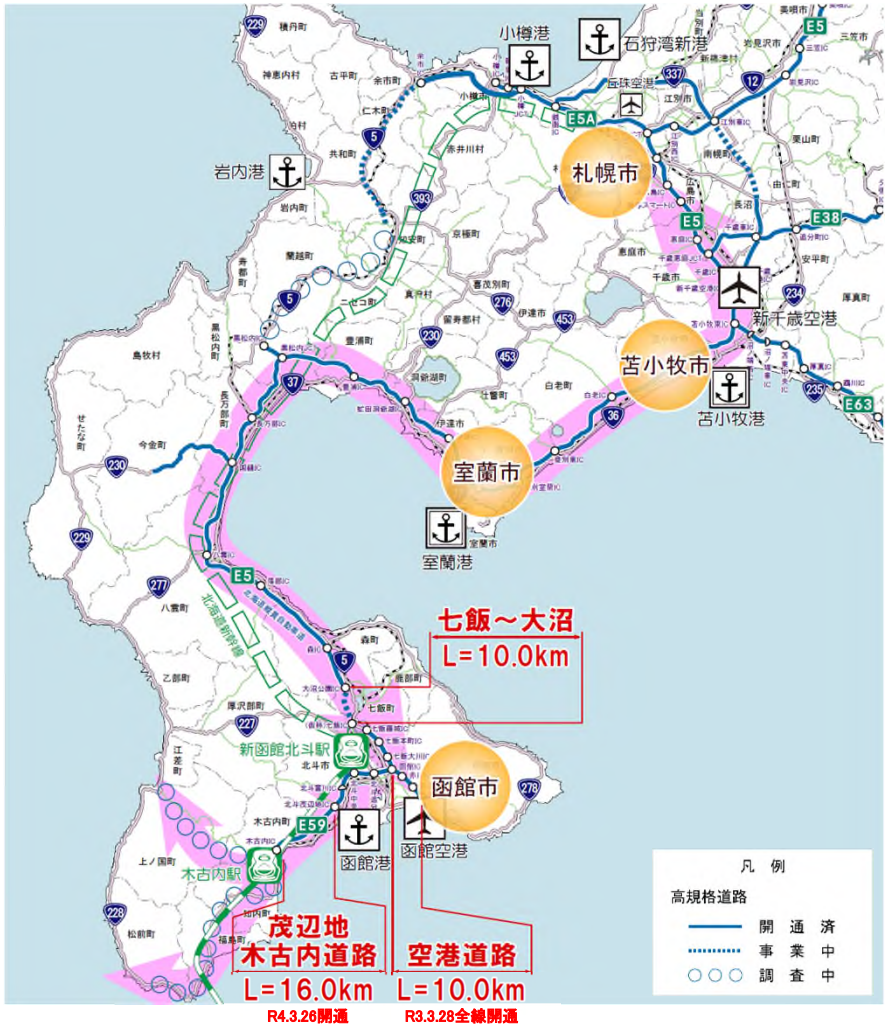
洪水浸水想定区域等のリスク情報の周知、円滑な避難行動等がとれるよう関係機関と連携したタイムライン（事前防災行動計画）を運用します

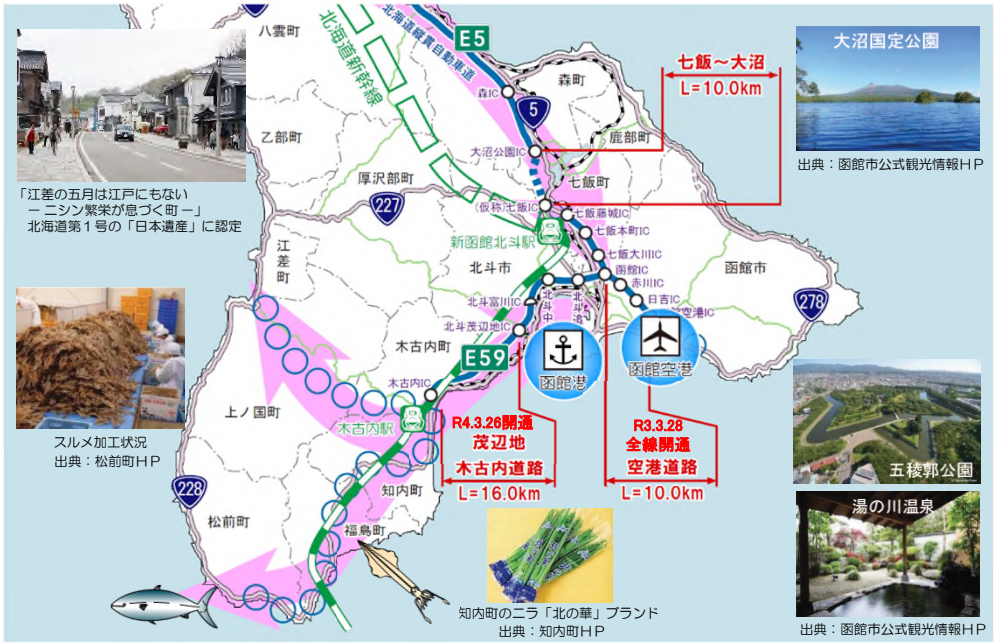
また、防災教育や自治会タイムラインを支援します

人が輝く地域社会の形成プロジェクト　世界に目を向けた産業の振興プロジェクト　強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト

高規格道路網等の整備

○広域的な交流・連携の確保、生産地や観光地、空港・港湾等とのアクセス強化により、農林水産業・観光産業など地域産業を支える高規格道路等の整備を推進します。





茂辺地木古内道路の整備状況
（R4.3.26開通）

空港道路の交通状況
（R3.3.28全線開通）

無電柱化の推進

○道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、地域住民や電線管理者等と連携し、無電柱化を推進します。

課題

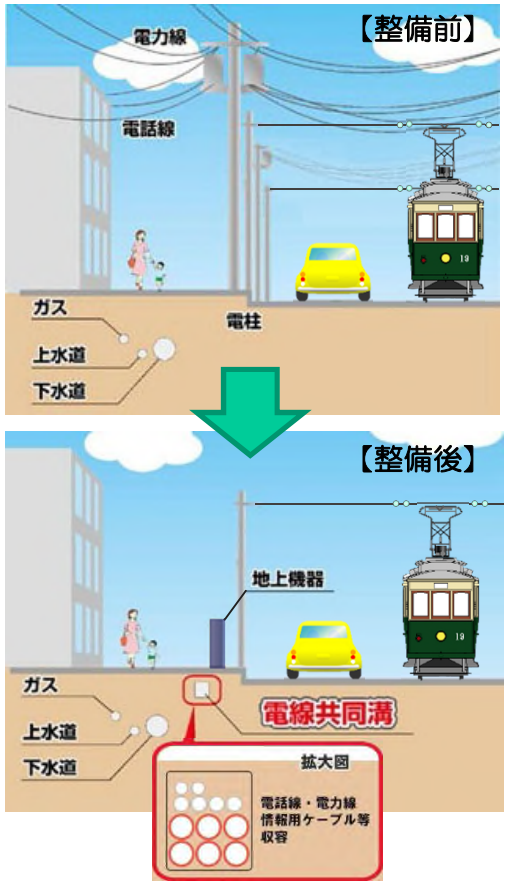
電柱倒壊による道路閉塞

出典：国土交通省 道路局HP

歩行等の支障となる電柱

景観の阻害

整備イメージ



電力線・電話線等を電線共同溝へ収容

整備状況

特殊部設置状況

管路設置状況

旅行客をやさしく出迎える道づくりの推進

○「シーニックバイウェイ北海道」では、地域が主体となり、美しい景観づくりなどに取り組み、魅力ある観光空間づくりを推進します。

○世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境の改善やサイクリストの受入環境の充実、情報発信の取組を推進します。

「シーニックバイウェイ北海道」の推進

管内では、「函館・大沼・噴火湾ルート」と「どうなん・追分・シーニックバイウェイルート」の2つが指定ルートとなっています。

＜ルートの活動事例＞

函館・大沼・噴火湾ルー

国道５号函館新道
シーニックdeナイト

どうなん・追分・シーニックルート

国道２２８号木古内町
サラキ岬

サイクルツーリズムの推進

管内では、道内10番目のサイクルルートに追加された「どうなん海道サイクルルート」は、地域と連携し、自転車走行環境の改善やサイクリスト受入環境の充実、情報発信等を行っています。

サイクルルート

国道２２８号
上ノ国町小砂子

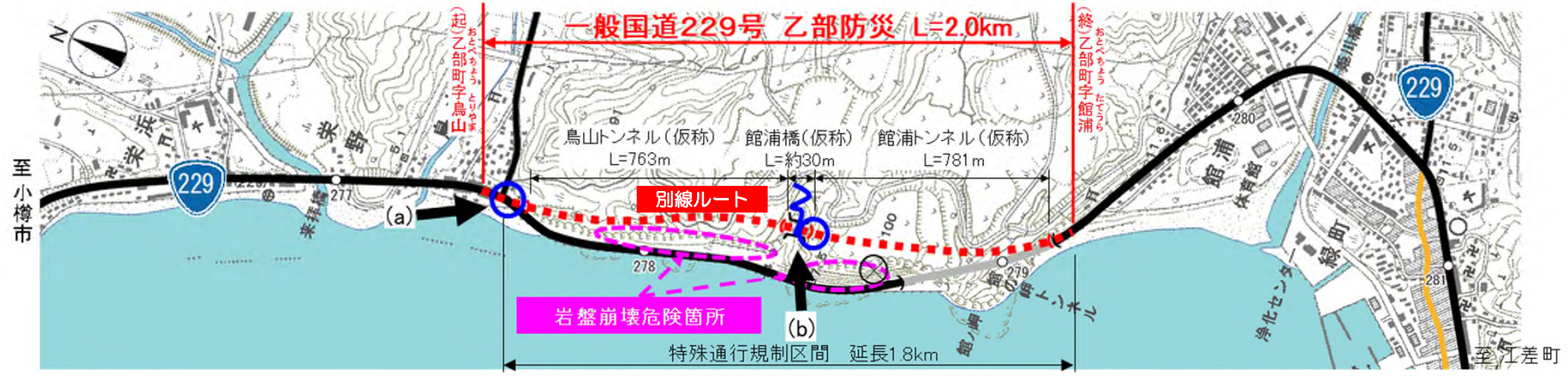
サイクリスト・応援カー

受入環境の向上

乙部防災事業の推進

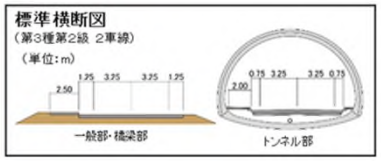
○一般国道229号の乙部町字鳥山から字館浦間は令和3年6月に発生した岩盤崩壊により、通行止めが継続し、地域生活に大きな影響が生じています。

○岩盤崩壊危険箇所を回避した道路の復旧を行うため、別線ルートによる整備を推進しています。



①鳥山トンネル坑口切土施工中
（令和6年6月25日） 写真(a)

②工事用道路施工中
（令和6年6月25日） 写真(b)



（参考）道路部門のカーボンニュートラルに向けた取り組み

〇北海道開発局では、道の駅へのEV充電設備の設置を推進しています。
〇各省庁の補助金メニューや、ワンストップ窓口がありますので、是非、ご活用ください。

各省庁の補助金メニュー例

- クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金（経済産業省）
- 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（環境省）
- 地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業（環境省）
- 脱炭素社会構築に向けた再エネ等由来水素活用推進事業（環境省）、（一部経済産業省連携事業））

ワンストップ窓口【ゼロ北テラス】

1．対象者
・北海道内の市町村

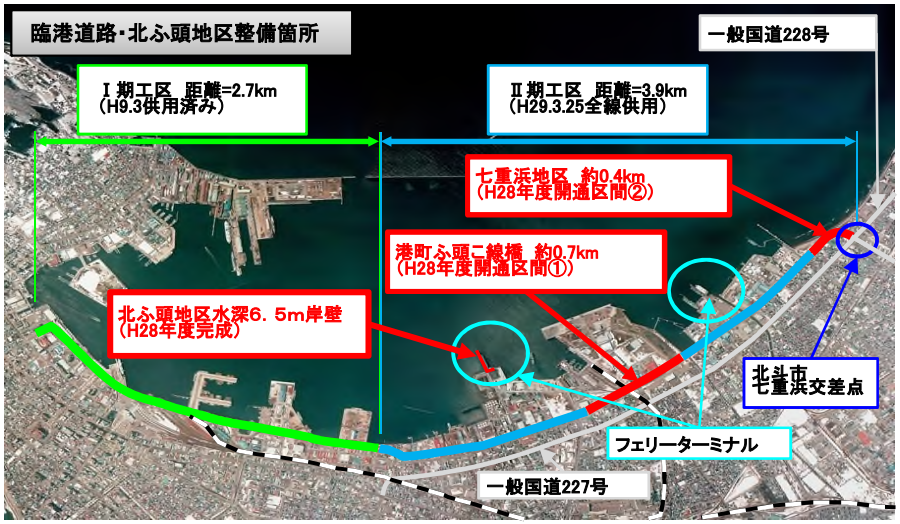
2．想定する支援内容
・関係省庁が多岐にわたる脱炭素事業に関する相談対応
・各市町村で実施検討中の事業について、活用可能性のある補助事業等の御紹介や事業実施に関する技術的助言等
・北海道庁ゼロカーボン推進局や各振興局に設置された地域ゼロカーボン推進室と連携して対応

WebページURL
https://hokkaido.env.go.jp/earth/post_142.html

フェリーの大型化によるゲートウェイ機能を確保する複合一貫輸送ターミナルの整備
物流機能を強化する国内物流ターミナルの整備　など

◆函館港本港地区幹線臨港道路整備事業については、港湾関連交通と一般交通の混在を緩和し、輸送効率の向上や交通安全の確保を図ることを目的に着工し、平成９年にはⅠ期工区（約2.7km）が完成・開通、引き続き、Ⅱ期工区（約3.9km）に着工しました。
平成２９年３月２５日、Ⅱ期工区も完成し、函館市豊川町から北斗市七重浜までの全線6.6kmが開通しました。
◆函館港北ふ頭地区複合一貫輸送ターミナル整備事業においては、荷役の効率化及び安全性の向上を図るとともに大規模地震の際に緊急物資等の輸送ルートを確保し、人命及び産業活動を守ることを目的に、平成２４年度に着工、平成２６年度に水深6.5mを有する耐震強化岸壁を暫定供用開始、平成２８年度に岸壁背後護岸が完成し、利用されています。

函館港



北ふ頭地区耐震強化岸壁利用状況

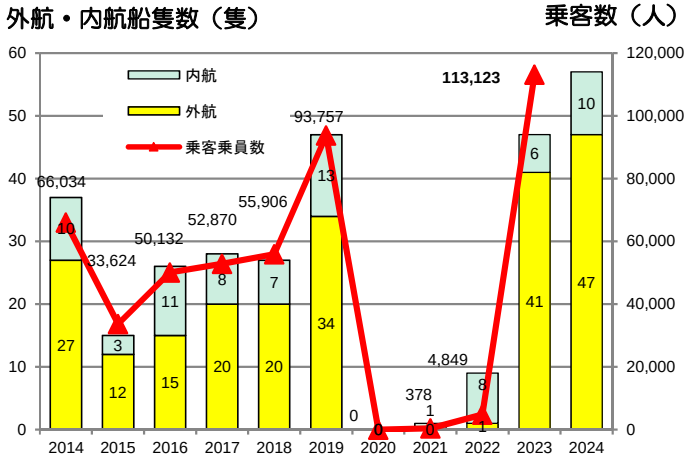
【本港地区幹線臨港道路整備事業（Ⅱ期工区）の概要】
○道路延長　約3.9km（4種1級、片側１車線）
○整備期間　平成９年度～平成28年度
○開通区間①　港町ふ頭こ線
　　延長730m（内橋梁部分334.6m）幅員9m、歩道なし
○開通区間②　七重浜地区
　　延長414m、幅員18m、曲線部R=100m、歩道あり

【北ふ頭地区複合一貫輸送ターミナル（耐震強化岸壁）整備事業の概要】
○岸壁延長　160m（船尾部30m）
○計画水深　水深6.5m
○整備期間　平成24年度～平成28年度
○主な構造形式　重力式（ケーソン、水中コンクリート）
○利用対象船舶　通常時：フェリー（5,000GT）
　　緊急時：フェリー（7,198GT）、貨物船（3,000DWT）

クルーズ船受け入れ環境の整備

◆近年、函館港へのクルーズ船寄港数は急増しており、令和５年は令和元年に並ぶ47隻で北海道１位。
　令和６年度は、クルーズ船寄港数がこれまでの最高隻数を更新予定です。
◆現在、クルーズ船は港町ふ頭と若松地区を利用しています。
◆若松地区は、函館駅、函館朝市や赤レンガ倉庫群など、主要な観光地への徒歩でアクセス可能なクルーズ船受入岸壁です。

函　館　港



出典：函館市客船入港実績一覧表

中心市街地から遠い既存岸壁

若松地区のクルーズ受入岸壁の整備箇所

【施設概要】
○整備施設：若松地区　岸壁(水深10m)　延長360m
（平成３０年１０月　岸壁(水深　８m)　延長225mで暫定供用）
（令和　３年　３月　岸壁(水深　９m)　延長360mで暫定利用可能）
（令和　５年　３月　岸壁(水深１０m)　延長360m　完成）
○対象船舶：ダイヤモンド・プリンセス（11万トン級）

ゲートウェイ機能・安定的な航空輸送を確保するための施設整備

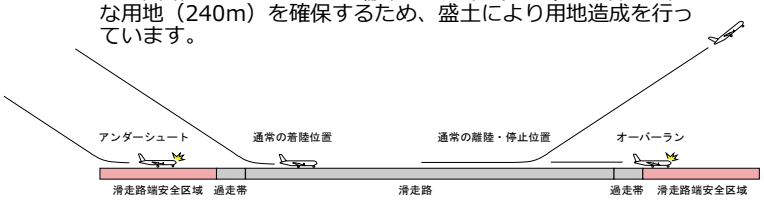
函館空港

○航空機の安全運航確保のための安全対策

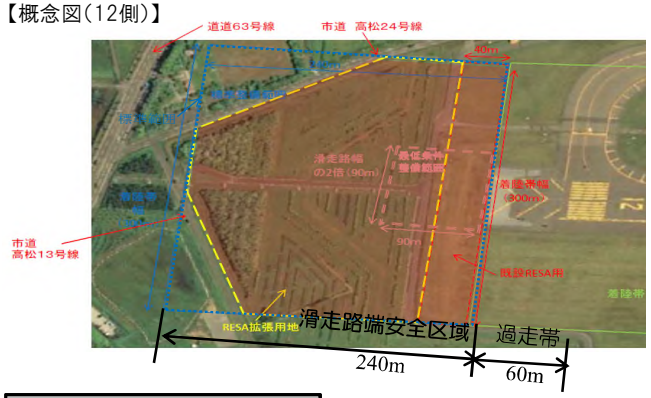
- 航空機がオーバーランまたはアンダーシュートを起した場合に航空機の損傷を軽減させる滑走路端安全区域（ＲＥＳＡ）の確保が必要
- 航空機安全運航のため、滑走路端安全区域（ＲＥＳＡ）の整備を実施。
- 現有敷地内の範囲を先行整備し、段階的に拡張することにより、早期に整備効果を発現。

滑走路端安全区域の整備について

函館空港では、滑走路端部の過走帯（60m）の外側に平坦な用地（240m）を確保するため、盛土により用地造成を行っています。

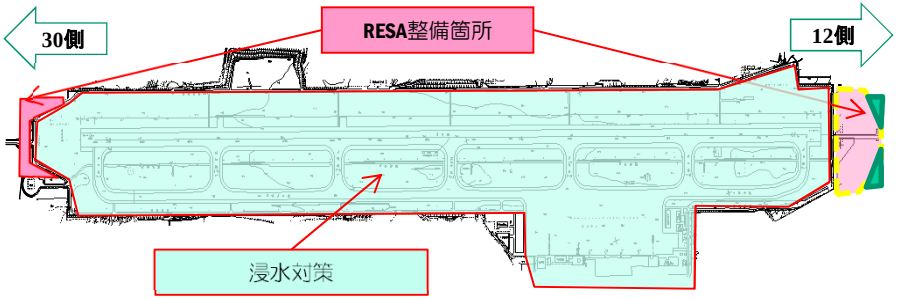


【概念図（12側）】



凡　例
先行整備範囲
最終整備範囲

※先行整備範囲：現有敷地内で先行整備を実施する範囲
最終整備範囲：ＲＥＳＡの必要範囲



○航空機の安全運航確保のための浸水対策

・豪雨による空港施設の浸水を防止するため、排水機能強化による浸水対策を実施

国営緊急農地再編整備事業

〇今金町及びせたな町の地区内において、区画整理及び土地利用の再編を行い、さらに担い手への農地の利用集積を進めることにより、緊急的に生産性の向上と優良農地の確保を図ります。

今金南地区

事業概要

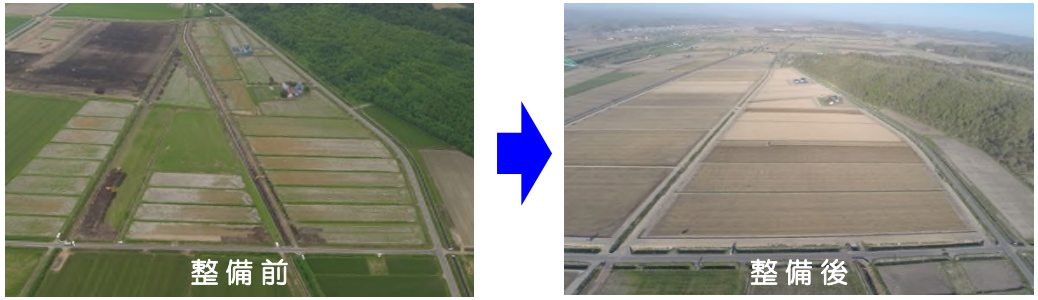
〇関係市町村:今金町、せたな町
〇受益面積　:1,224ha
〇主要工事　:区画整理　1,224ha

今金北地区

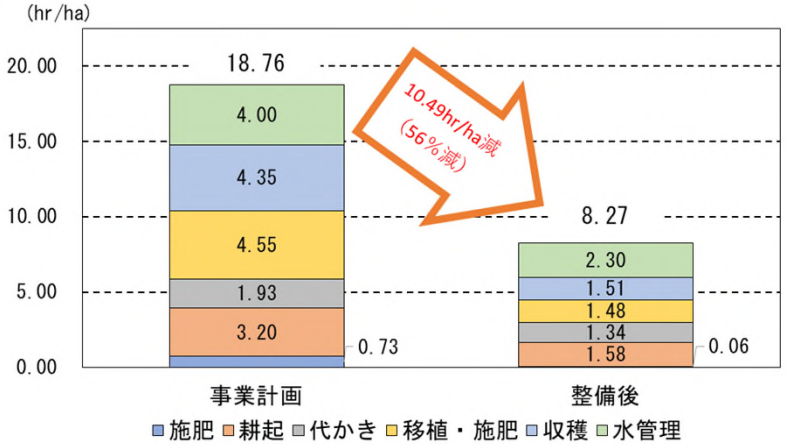
事業概要

〇関係市町村:今金町
〇受益面積　:1,536ha
〇主要工事　:区画整理　1,013ha
　　農業用用排水　851ha

〇ほ場区画の拡大、営農組織の共同化による安定した農業経営を実現



▸▸ ほ場の大区画化による効率的な営農



ほ場の大区画化やフォアスシステムの整備により効率的な営農が可能となり、労働時間が大幅に節減されています。また、更なる労働時間の節減が期待される水稲の直播栽培面積も拡大しています。

労働時間の節減により、経営規模拡大やミニトマト、アスパラガス、ブロッコリー等の高収益野菜の作付け増が期待されています。

▸▸ スマート農業の推進

今金町では、担い手の減少、労働力不足等に対応した持続的な農業を推進するため「今金町スマート農業推進協議会」が設立されています。

GNSSガイダンス自動操舵システム、ロボットトラクター、ドローン及び遠隔操作自動給水栓等を導入するため、RTK基地局の整備等を進めており、スマート農業技術実装の加速化を図っています。

GPS搭載の田植機

「わが村は美しく－北海道」運動の推進

○「わが村は美しく－北海道」運動は、北海道の農山漁村において、地域の魅力づくりのために、地域の資源を活かして、地域住民が主体的に行っている様々な取り組みを支援し、地域を活性化させることを目的とした運動。
○活動の輪を大きく広げ、北海道の「いいもの」（景観、地域特産物、人の交流）を多くの人に伝えるための取り組みを行っています。

参加しよう・広げよう・いいもの伝えよう
"わが村は美しく－北海道"

第11回コンクールのスケジュール

（1年目）ブロック審査
現地調査、優秀賞・奨励賞の選考
・応募　R5.1.25～R5.6.30
・応募団体の現地調査、審査
・「優秀賞」「奨励賞」の決定

優秀賞・奨励賞表彰式
・「優秀賞」は全道審査へ

（2年目）全道審査
大賞の選考
・各ブロックの優秀賞の中から大賞を選考

大賞表彰式

R4.5年度
R6年度

多くの人に伝えるための取組

●HPへ掲載　●facebookの取組
●メールマガジンの配信
●JR北海道車内誌への掲載（JR北海道の協力）
●地域イベントで活動PR
●パネル展でPR（北洋銀行との連携）

第11回コンクール：函館ブロック審査（R5）表彰団体

優秀賞

○にじいろファーム（七飯町）

農業のすばらしさ、楽しさ、やりがいを伝えたい！
家庭菜園をきっかけに野菜作りに魅力を感じ、もっといろいろな野菜を作って、たくさんの人に食べてもらいたいと思うようになり、新規就農を目指しました。研修を受けて2020年4月に独立、「にじのように色とりどりの新鮮な美味しい野菜を皆様にお届けしたい！」という思いから名前を「にじいろファーム」にしました。
農園では、七飯町を代表する白かぶ、人参、大根、長ネギを含めた約40品目の野菜を栽培しています。
毎年全国各地から修学旅行生の農業体験を受け入れています。次世代の子どもたちに七飯町の農業の魅力を伝えるため、地元中学生の職場体験も実施しています。
就労支援事業所と農福連携にも取り組んでおり、農業に携わることで少しでもやりがい、生きがいを感じてくれたら良いと思っています。
近郊で開催されるイベントや取材も積極的に受け、七飯産野菜の美味しさや直売所を知ってもらうための活動に取り組んでいます。

奨励賞

○ハコダテフィッシャーマンズ（函館市）

漁業のかっこよさを伝えたい
魚ばなれが叫ばれるなか、息子に「パパが捕った魚はどこで売ってるの？」と聞かれて答えることが出来ませんでした。地元の海産物のことや、それを捕った漁師のことをもっと市民に知ってもらうために直売をしたい。地元を盛り上げて漁師の現状を知ってもらうためにマルシェをやっちゃおう！　若手漁師4人で『ハコダテフィッシャーマンズ』を結成し、2021年2月に自分が捕った魚を持ち寄って「フィッシャーマンズマルシェ」を開催しました。
団体・企業等と連携してイベント等を仕掛けています。新幹線で大宮まで魚を運んだ「函館物産展」や水産会社とコラボして「福マルシェ」等に参加しています。また、型が小さい、知名度が低いなどの理由で流通ルートに乗らない未利用魚に着目した商品化等も展開中です。

○一般社団法人 福島町まちづくり工房（福島町）

多種多様な事業展開で町の活性化！
2016年に福島町と町民有志の共同出資で立ち上がりました。過疎化が著しい福島町の未来を見据えて、公共施設管理、クルーズ事業、物品開発・販売事業による全体的な町のPRを目的とし「町の活性化」「町と人を創る」「雇用の創出」を理念としています。
観光クルーズ船「岩部クルーズ」の運行は、人気が高く、住民が2世帯の町内岩部地区を年間数千人が訪れる場所にしました。
物品開発・販売事業：町内農林水産業の関係団体と連携して、新商品の開発、特産品の消費拡大や、商品PR、商品力のアップ（パッケージデザイン制作等）、商品写真の撮影等、の課題解決に向けて取り組んでいます。
観光ポスターの作成やインターネットを通じたSNSでの情報発信を展開しています。

世界に目を向けた産業の振興プロジェクト　強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト

水産物の衛生管理対策に資する岸壁の整備
港内静穏度向上を図る防波堤等の整備　など

◆ 消費者に対し高鮮度で安全・安心な水産物を安定供給するため、屋根付き岸壁の整備による衛生管理対策、港内静穏度向上及び漁業活動の安全・効率化を図るための防波堤等の整備を行っています。

久遠漁港や青苗漁港では、直射日光による漁獲物の鮮度低下や鳥糞・埃等の異物混入が懸念されていたため、安全で安心な水産物の安定供給に対応した屋根付き岸壁の整備を実施。

久遠漁港

久遠漁港　屋根付き岸壁（-4.0m岸壁）［平成29年度完了］

青苗漁港

青苗漁港　屋根付き岸壁（-3.5m岸壁）［平成29年度完了］

江良漁港や福島漁港、青苗漁港では、荒天時に防波堤や護岸からの越波、港口からの進入波浪により、漁港施設や係留漁船に損傷等の被害が発生していたことから、漁業活動の安全確保や作業効率の向上を図るための防波堤や護岸の整備を実施。

江良漁港

江良漁港　防波堤の嵩上げ［整備中］

福島漁港

福島漁港　防波堤の整備
［平成28年度完了］

青苗漁港

青苗漁港　防波堤の改良
［令和3年度完了］

人々が輝く地域社会の形成プロジェクト　世界に目を向けた産業の振興プロジェクト

水産資源を活用した観光振興等地域マリンビジョンの推進
ポストコロナに対応する地域の強みを生かした産業の育成

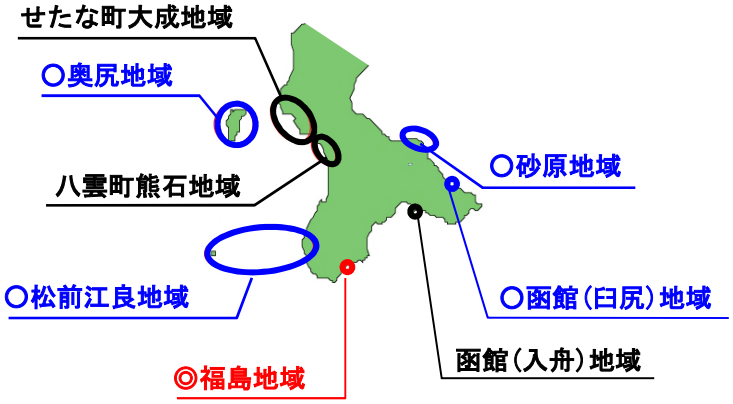
マリンビジョンマーク

◆　第3種・4種漁港を中心とする管内各地域では、漁業者や住民、関係団体、行政等が協議会を組織し、水産業を核とした地域振興方策となる「地域マリンビジョン」を策定。各地域においては、水産物の新商品開発による販売増や雇用拡大、地域資源を活かした交流機会の増大等、水産業や地域の活性化に取り組んでいます。

食育・消費拡大

地元の学校を対象に、料理教室や漁業体験学習等を開催し、地域の基幹産業である漁業への理解を深める活動のほか、地元食材のおいしさを知ってもらい水産物の消費拡大や将来の後継者に繋がる取組を実施しています

函館開発建設部管内 地域マリンビジョン策定状況



赤字：モデル地域
※先駆性や独創性が認められ、他の地域のモデルとして見込める地域
青字：推進地域
※モデル地域に準じる地域
黒字：上記以外の地域

水産物のブランド化

水産物の付加価値向上や販路拡大のため地域水産物のブランド化を推進しています

増養殖への取組

水産資源の低迷等により生産量が減少しているなか、漁業の振興や経営の安定化、ブランド化による地域の活性化を図るため、整備した漁港施設や港内水域を活用して、増養殖の取組が行われています

民間・大学・研究機関との連携

地域が民間や大学、研究機関と連携し、これまであまり利用されていなかった未利用資源の活用や陸上養殖の確立・活用により、市場開拓や新たな観光資源づくりを進めています

ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ、リエゾンの体制強化等の取組
「道の駅」の防災拠点化

ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ（緊急災害対策派遣隊）

被災地での活動

●被災状況の迅速な把握
　・二次災害防止、被害拡大防止のための被災状況（範囲、危険度）の把握
●被害の発生及び拡大の防止
　・排水ポンプ車による浸水域排水
　・応急組立て橋の設置、無人化機械等による応急措置等
●応急復旧等に対する技術的な支援
　・自治体施設に係る応急復旧工事の調査やアドバイス
●その他
　・緊急輸送の調整

TEC-FORCE派遣実績（北海道開発局）
令和３年１１月２２～２９日　小笠原諸島「福徳岡ノ場」噴火による軽石漂着被害対応のため（沖縄県へ派遣、函館開建１名）

沖縄総合事務局と打ち合わせ

軽石の漂着状況調査

リエゾン（現地情報連絡員）

リエゾン（現地情報連絡員）の体制強化

■H30よりTEC-FORCEと一体化
■R05 派遣実績
　福島町に３名、渡島平野土地改良区に１名の職員を派遣。

リエゾン派遣

振興局・市町村等
災害の発生
又は、そのおそれ

情報収集・伝達

「道の駅」の防災拠点化

防災拠点機能・役割
■ 災害時の避難場所としてスペースの提供
■ 災害時・非常時での簡易トイレ・照明の提供
■ 道路の規制情報や被災情報、気象状況等の提供

整備概要
■ 災害時・非常時用トイレ（断水時に使用可）
■ 災害時・非常時の情報通信機器（情報コンセント）
■ 非常用電源
■ 非常用照明

▼災害時・非常時用トイレ

▼情報通信機器

▼非常用電源

▼非常用照明